

平成 27 年度 東商エコリーグ 事業報告書

平成 28 年 6 月

■事業概況：

<全体傾向(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)>

平成 28 年 3 月末現在の参加事業者数は、1,457 件で対前年度比 47 件と増加した。参加事業者数は、昨年度の中野地区の事業終了の影響を受け減少したが、この要因を除けば一昨年度は増加に転じ、ここ数年来増加傾向にある。

年間回収量は、約 1,319 トンであった。対前年度比は約 30 トン(約 2.3%)の減少に転じた。古紙発生量の増減が、国内製紙メーカーの紙生産量の推移と時間差をもって連動するとすれば、平成 27 年の新聞用紙は対前年比で -4.8%、印刷情報用紙が -1.3%(資料：経産省生産動態統計年報)であることから、東商エコリーグの回収実績も紙生産動向どおりに減少したといえる。

参加事業所数・回収量の増減傾向は各地区各様であるが、事業所数は全 10 地区中 5 地区が増加、4 地区が減少した。

<地域別傾向>

参加事業所数増加区は、港(+21)、新宿(+1)、墨田(+7)世田谷(+37 社)、荒川(+4 社)の 5 地区で昨年より 2 地区増加した。一方、減少区は、江東(-15 社)、大田(-1 社)、北(-6 社)、渋谷(-1 社)の 4 区で昨年より 1 地区増加した。

回収量の増加区は新宿(+約 1.3 トン)、荒川(+約 0.8 トン)の 2 地区で昨年より 4 地区減った。他方、減少区は港(-約 1.5 トン)、台東(-約 136 トン)、墨田(-約 0.8 トン)、江東(-約 1 トン)、大田(-約 2.1 トン)、世田谷(-約 8.8 トン)、北(-約 5 トン)、渋谷(-約 0.03 トン)の 8 地区で昨年より 4 区増えた。

<所感>

当年度は、回収量の減少区が 8 地区と多かったが、エコリーグシステムの安定性の指標となる参加事業所数の増減では、半数の 5 地区が増加し、合計で +3% にあたる 47 事業者の増加となった。平成 25 年度以降より取り戻しつつあった安定性は堅調に推移してきているといえる。

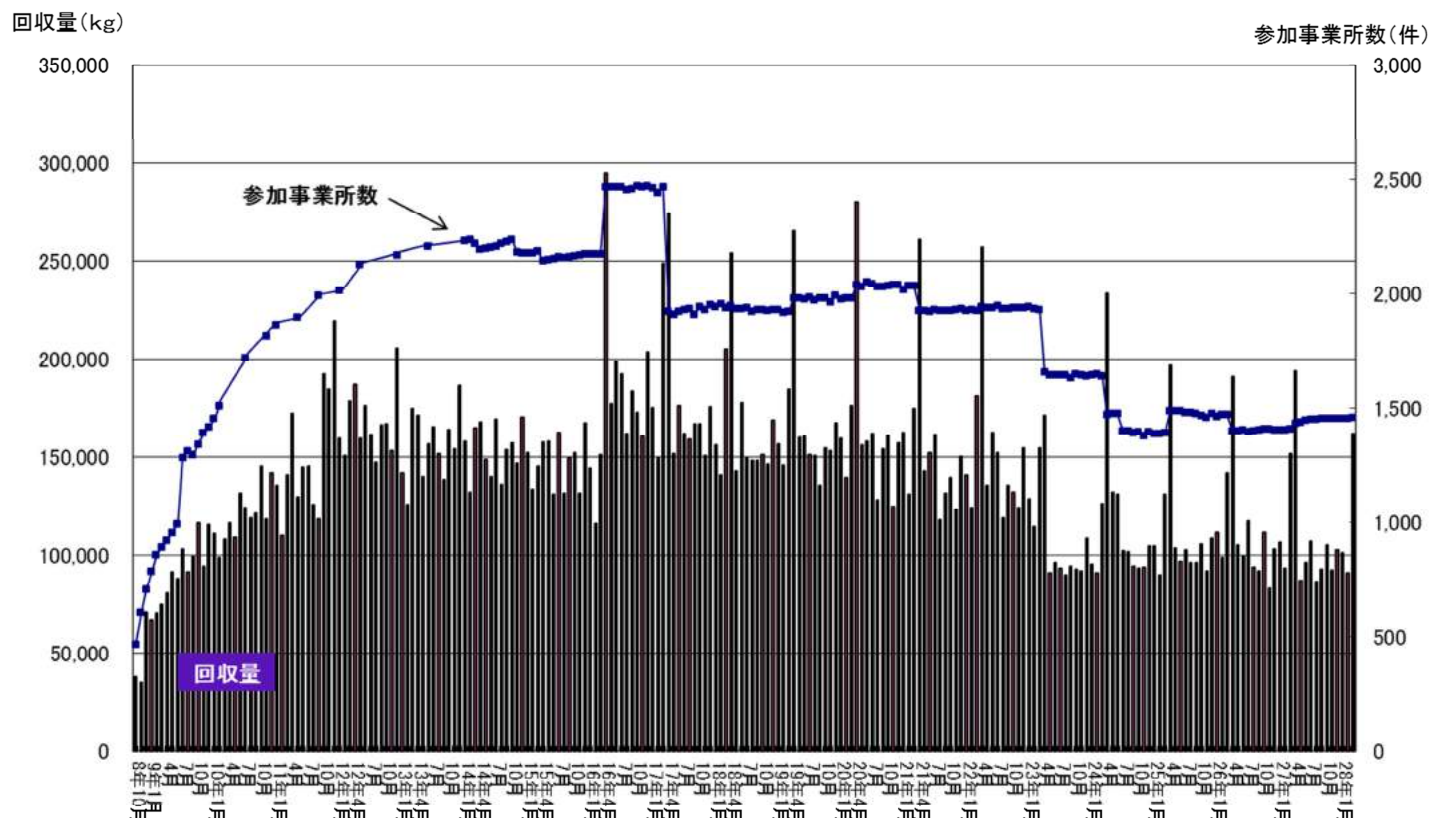
平成 29 年 10 月 1 日を目途に 23 区の廃棄物処理料金(現行 36.5 円/Kg)が値上改定される予定である。加えて 4 年後の東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、行政によるより質の高いリサイクルシステムの見直しが図られることが想定される。

東商エコリーグは、一般の資源回収業者や廃棄物処理事業者では回収条件が悪く対応しづらいとされる少量排出の小規模事業所を対象としている。このため、来年予定されている廃棄物処理料金の改定は当システムの存在価値をより高めることが見込まれる。行政回収や集団回収ルートに小規模事業所の資源がただのり排出されないよう、行政によって資源排出ルールの指導・徹底や小規模事業者の処理責任意識の向上策が継続的に展開されるよう、東京都、23 区等と連携・協力しながら、エコリーグ事業の強化を図る段階にあるといえる。

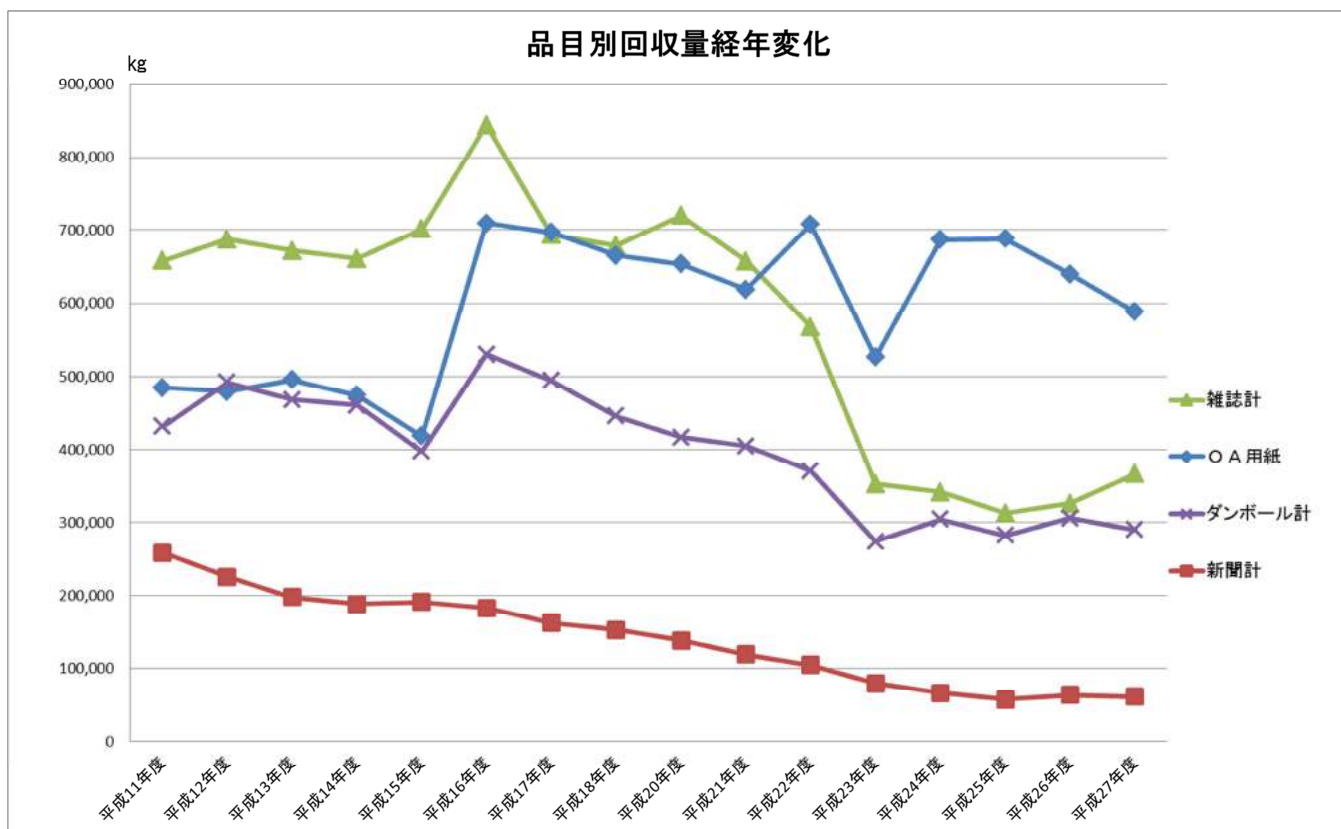
報告書作成：東リ協会(公益社団法人東京都リサイクル事業協会)旧 R 団連(東京都リサイクル事業団体連合会)

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

■回収量と参加事業所数の推移

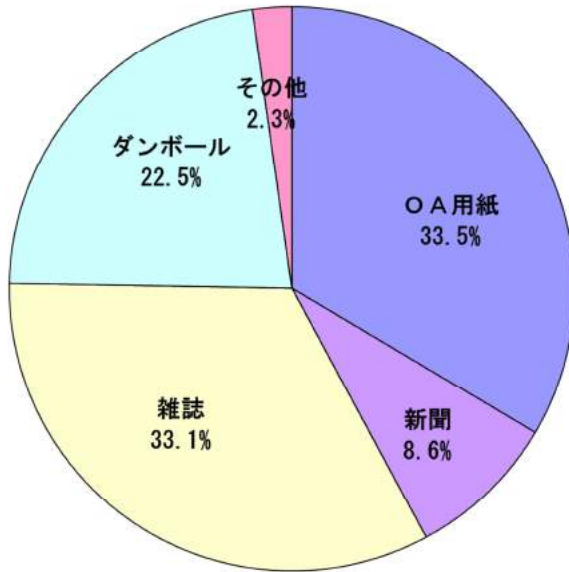


■品目別回収量経年変化



■回収古紙別割合(平成8年10月～平成28年3月)

東商エコリーグ 回収古紙別割合 (平成8年10月～平成28年3月)



過去19年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌及びコピーや連続用紙などのOA用紙等が全体の約7割(67%)を占めている。OA用紙(33.5%)・雑誌(33.1%)。ついで段ボールなどの梱包材が約2割(22.5%)、新聞古紙が約1割(8.6%)の組成となっている。

■古紙価格の推移

